

信用金庫の新しいビジネスモデル策定（22）

－ 預金セールスの推進動向 －

ポイント

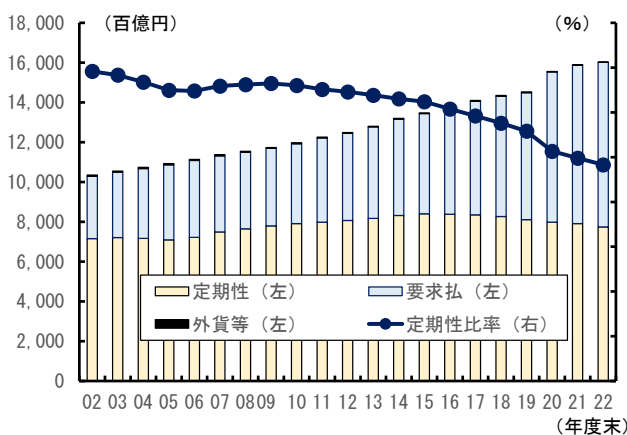
- 今後の金利上昇が見込まれるなか、個人定期預金の減少などから信用金庫の預金吸収力の低下を懸念する声が高まってきた。
- 現状、多くの信用金庫で預金セールスに関する営業面での優先順位は企業向け貸出の推進などに劣後するものの、来年度以降の重要課題に浮上しつつある。
- 推進時の検討課題は、①経営資源の投入量、②コスト負担の受容などがあり、本格的な金利上昇前に③自金庫の適正規模についても庫内で十分な議論実施が求められる。
- 研修受講金庫の取組事例を挙げると、営業店が融資セールスに専念できるよう、本部が責任を持って預金残高の維持に取り組む信用金庫があった。

（注）本稿は、当研究所主催「経営戦略プランニング研修（2023年度）」の講義および意見交換時の内容を中心に作成している。

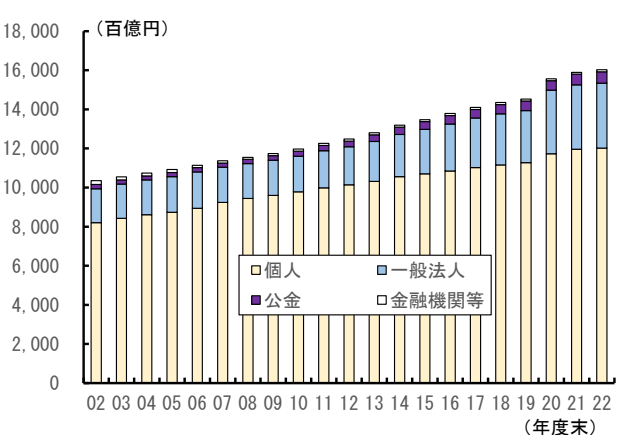
1. 預金残高の推移

2022年度末の信用金庫の預金残高は、前期比0.8%、1兆4,101億円増加の160兆2,802億円となり、過去最高を更新した（図表1）。ただし預金の内訳をみると、預金種類別では定期性預金が7年連続で前年度末を下回ったうえ、コロナ禍で大きく伸びた要求払預金の伸び率も足元では鈍化がみられる。また預金者別では、個人預金、一般法人預金ともに2年連続で伸び率が縮小しており、特に個人預金は預金全体の増加を下回った（図表2）。それに対し、公金預金は引き続き高い増加を示しており、この背景には預金残高の維持といった動きの存在も想像される。

（図表1）預金残高の推移（預金種類別）



（図表2）預金残高の推移（預金者別）



（備考）1. 本稿では他業態との合併等を考慮していない。

2. 図表1から3まで信金中央金庫 地域・中小企業研究所作成

2. 預金セールス推進への転換

近い将来、日本銀行によるマイナス金利政策が解除される可能性がある。現状、多くの信用金庫で預金セールスに対する営業面での優先順位は企業向け貸出の推進に劣後するものの、足元の預金残高の伸び悩みに加え、マイナス金利政策の解除可能性を勘案すると、2024年度以降、積極的な預金セールスへの転換もあり得るだろう。

3. 推進時の留意点

推進時の検討課題は、①経営資源の投入量、②コスト負担の受容などである。預金を獲得するため、金利を上乗せするのか、マンパワーを投入するのか、更には融資セールスや預かり資産セールスとのバランスを何処に置くのかなどを先ずは決めていく必要がある。また中長期的な視点に立ち、預金残高を伸ばし続けるのではなく、③自金庫の適正規模についての議論を始める必要性もあるのではないかと。

4. 研修受講金庫の取組事例

当研修の意見交換時に聴取した研修受講金庫の主なコメントは図表3のとおりである¹。

(図表3) 預金セールスに関する主なコメント

- 当金庫は、『預金残高が維持できれば十分である。』の考えである。地域の人口が減るなか預金残高を伸ばすために無理なセールスを展開する方がナンセンスだと考える。
- ここ数年、預金セールスに積極的ではなかったこともあり、気が付くと流動性比率が高まり過ぎた。先ずは預金残高の維持より構成の見直しに注力したい。
- 金庫全体では預金が増えているが、店舗によって差が開きつつある。全体の底上げのため来年度以降はボーナスキャンペーンの再開なども必要となろう。
- 当金庫の預金残高は、既に自然体でみるとマイナスである。ただし営業店に負荷をかけたくないため、本部が公金預金を取りに行き残高を維持する考えである。
- 営業店に負荷をかけずに預金を獲得する方法としてネット支店の開設を検討している。高い調達コストを払うことになるが、営業店に預金セールスをさせるよりはマシである。
- これまで定期預金の満期客などに預かり資産を推奨してきたが、そろそろ行いにくくなってきた。今後は預金セールスと預かり資産セールスの両立策を考える必要がある。
- これまで当金庫は「融資特化戦略」を打ち出し営業店を叱咤していたが、ここに来て「預貸併進戦略」に転換し、預金キャンペーンを合わせて開始した。
- 多少の金利上乗せでは預金顧客はなびかず、むしろ金利上昇が続くなら保険商品に預金客が流れていく懸念がある。

本レポートは発表時点における情報提供を目的としており、文章中の意見に関する部分は執筆者個人の見解となります。したがって、投資・施策実施等についてはご自身の判断をお願いします。また、レポート掲載資料は信頼できると考える各種データに基づき作成していますが、当研究所が正確性および完全性を保証するものではありません。なお、記述されている予測または執筆者の見解は予告なしに変更することがありますのでご注意ください。

¹ 当該コメントは研修受講者の個人的な意見・感想を含むものであり、研修受講金庫の正式なコメントではない。そのため事例の記載にあたっては信用金庫名が特定できないように修正してある(信用金庫名の照会や関連資料の提供依頼にはお応えしていません)。